

第4回益城町新庁舎建設検討委員会議事録（要旨）

○日 時 平成29年8月16日（水）10:00～

○場 所 役場仮設庁舎2階 応接室

○会議次第

- 1 開 会
- 2 議 題
 - (1) 新庁舎建設についてのこれまでの経過
 - (2) 新庁舎建設の基本理念・基本方針について
 - (3) 新庁舎の機能、規模等について
 - (4) 町民アンケートの実施について
 - (5) 今後のスケジュールについて
 - (6) その他
- 3 閉 会

○出席者（順不同）

委 員：稲田委員長・柿本副委員長・鳥井委員・澤田委員・小葉委員・橋場委員
菅委員・宮崎委員・宮本委員・竹尾委員・嶋田委員
（欠席者）前田委員・住永委員
事務局：永田政策審議監・中桐総務課長・富永係長・森田参事・富田主査
（株）山下設計九州支社：大林・古元

■配布資料

- ・会議次第
- ・新庁舎建設検討委員会委員名簿
- ・資料1：新庁舎建設についてのこれまでの経過
- ・資料2：第1章はじめに～第5章新庁舎建設の基本指標
- ・資料3：町民アンケートの実施について（案）
- ・資料4：今後のスケジュール

■議 題

議題（1）新庁舎建設についてのこれまでの経過

- ・事務局より新庁舎建設に向けてのこれまでの経過を説明
- ・基本構想・基本計画策定の業務委託者として（株）山下設計を紹介

議題（２）新庁舎建設の基本理念・基本方針について

・事務局より新庁舎建設の基本理念・基本方針について説明

【質疑・ご意見等】

- (委員) 資料２の７ページ。防災拠点として町民を守る庁舎との記載について、町民が避難する場所でないという認識で良いか。
- (事務局) 災害時には指揮系統拠点としての機能を有するため、町民の避難場所としては想定していない。
- (委員) 資料２の１０ページ。災害に強く安心安全の拠点となる庁舎の記載について、全ての災害に対応できるとは言えない。どの様な災害を想定しているか。
- (事務局) 震度７の地震が連続して発生したケースはこれまでなく、繰り返し地震でも機能を損ねない耐震性能を持つ構造とすることなどを想定している。
その他設備的なものについても国交省の指針に則った庁舎とすることや、火災等に対しても延焼の防止を図ることや、内装の不燃化、開口部の措置などの対応を想定している。
- (委員) 新庁舎の計画地付近には断層がある。杭を打つだけで建物の安全性は確保されると言えるか。
- (事務局) 杭は支持層に固定するか乗せるかなど様々な工法がある。いずれもボーリング調査により支持層の確認を行い、基本設計の段階で地盤状況に合わせた工法を選定することになる。
免震構造とする場合も、日本建築センター等の検査機関にて工法を検証するなど安全性の確認を行う。
- (委員) 慢性的な駐車場不足の問題が挙げられているが、震災前の状況を想定しているのか。
- (事務局) 第３回建設検討員会で駐車場の問題についての検討があり、その内容を踏襲している。基本計画では、建物規模に応じて駐車台数がどの程度確保できるか等、具体的に検討する予定。敷地全体の計画については、区画整理事業とも協議し、整合しながら進める必要がある。
- (委員) 資料２の１３ページ。自然エネルギーの活用とあるが、太陽光パネルの設置と屋上緑化についてはどちらも屋根面に設置することから、相反するのではないか。
- (事務局) 維持管理上の問題やコストも含め、採用の可否については、基本設計にて具体的に検討することになる。屋上緑化については、景観維持の面もあるが、日射面に対する断熱効果も期待できる。
- (委員) いずれの項目を見ても、まず初めに防災や災害の点について記載がある。
熊本地震を受けて庁舎建替えとなっているので必要な内容ではあるが、災害は突発的なものであり、日常的な内容ではない。日常的な内容で、役場として一番大切に考えなければならないのは、住民サービスについての項目であり、その内容

を一番とすべき。

(事務局) 住民サービスの項目を一番目として修正する。

(委員) 省エネの項目を掲げているのに対し、駐車場を広く確保するというのは、内容が矛盾している。省エネ対策を挙げるのであれば、職員が先導して公共交通機関を利用すべき。

(事務局) 公共交通機関との連携も含めて、駐車場規模については今後検討する。

(委員) 震災前には子育て人口も増え、益城町の人口は少しずつ増加していた。震災後には人口減少傾向にある。今後の見通しはどうか。

町には女性の雇用が少なく、女性が留まりにくい状況にある。庁舎建設に際しても、女性にも使いやすい視点も含めた、ユニバーサルデザインの導入を求める。

議題（３）新庁舎建設の機能・規模について

・事務局より新庁舎の機能・規模について説明

【質疑・ご意見等】

(委員) 職員数は現況で算定しているとの事。益城町の職員数はもともと少ないこともあり、今後の予測も踏まえ見直しが必要では。

(事務局) 益城町の人口は、震災後に1,500人減少したが、直近では徐々に増加傾向にある。まずは震災の為に町を離れた町民に戻ってほしいが、人口増加の施策を進めることで、今後は人口が増えると想定している。

(委員) 現在も視察などを含めて来客が非常に多い状況。会議室が狭く対応しにくい場合もある。庁舎以外にホールなどを建設する予定が無いのであれば、ある程度のセミナー等が行える広めの会議室を望む。また、町民への貸し出しも検討してもらいたい。

(委員) 震災メモリアルについてのスペースはどの様に考えるか。

(事務局) ロビーでの展示程度を想定している。

(委員) 庁舎規模を6,600㎡とする為に、他事例を選定した様に感じる。四万十市などは職員1人当たりの面積が広い。益城町も財政措置が可能であればもう少し広く見直しても良いのでは。

(委員) 町にはイベントができる様なスペースも少ないので、庁舎に組み込んで作ることはできないか。

(事務局) 職員数についても今後の見通しを改めて確認し、基本計画の中で庁舎規模を決めていきたい。

議題（４）町民アンケートについて

・事務局より町民アンケートの目的、実施方法等について説明

【質疑・ご意見等】

- (委 員) アンケート対象者は無作為抽出であるが、年齢や性別など偏りの無いように調整する必要がある。
- (事務局) 電算により抽出する。地区・年齢・性別等がある程度分散させる予定。
- (委 員) 町民アンケートは1回しか行わないのであれば、基本計画がある程度まとまった時点が良いのでは。
- (事務局) 今回基本計画の基になるご意見を聴取したいと考えている。基本計画がまとまり次第、パブリックコメントにて改めて意見聴取を行う。
- (委 員) アンケート者数は2,000名とあるが、根拠はあるか。
- (事務局) 近隣市町村での庁舎建設にかかるアンケート事例を参考にしている。

議題（5）今後のスケジュールについて

- ・事務局より打合せ議題表と設計から供用開始までのスケジュールを説明

【質疑・ご意見等】

- (委 員) 近隣の天津町庁舎も同じようなスケジュールで進んでいるが、益城町の方が1年程供用開始が遅いようである。
- (事務局) 近隣の事例を参考にしながら、計画を進めていきたい。

(以上)